

今のあなたに

「病院は早く退院させすぎる。こんな大きな病気があるのに、体力が十分回復するまで入院させて欲しい」という声を聞くことが多いです。

このお気持ちはよく分かります。10年前は、胃がんの手術であれば、1ヶ月以上入院して食事が十分食べることができることを確認して、退院していました。

今は、がんの手術や放射線治療を行う大きな病院（＝急性期病院）と他の病院や診療所で役割を分担することになっています。急性期病院は、長期に療養する場ではありません。

急性期病院のベッドは、治療を待つ人たちが譲り合う必要があります。

あなたの退院に向けた不安を
具体的に書き出してみましょう。

病院の相談窓口で、その不安を
相談しましょう。

退院後の心の持ち方

病気を受け入れることは、誰にとっても容易ではありません。でも、その中でも「自分らしい生活」を整えることはできます。

病気になっても、自分の人生を大切に生きる。
あなたにだけできることです。

- 自分の生活、生き方でこれからも大切にしたいことは何ですか？
- 何かに縛られていませんか？ この機会に新しい考え方で生きることもできます。
- 生きるという視点から、自分をもう一度、見直してみましょう。

自分の希望をもち、周りの人に感謝し、他者との心の交流によって自分の生き方が見えてくるかもしれません。

まずは病院の相談窓口におたずね下さい。

病院と地域の2人の主治医
+地域のサポーターが支えます。

退院後の不安について

今の体力で家に帰っても不安……………
自宅で何か症状が出たらどうしよう……………
治療のためのチューブが体に入っているのに……
一人暮らして症状が出たとき大丈夫かしら……………
介護は初めて。家族でできるかしら……………

在宅療養支援診療所とは

自宅で療養する方々を24時間体制で応援する診療所です。病院の主治医と連携して、自宅に帰った時の主治医となります。往診する以外にも訪問介護や訪問薬剤師、ケアマネジャーと連携して介護保険でのヘルパーや訪問リハビリなどの派遣も調整してくれます。

医療処置……………

在宅でも、あなたに必要な医療処置は病院と同等にできます。点滴、酸素投与、吸引、種々の管（カテーテル）の管理など、あなたに必要な医療処置は、在宅でも可能です。必要な処置ができるように手配してから移ります。

急変対応……………

急に症状が変わったとき等は、病院の主治医と連携して、必要な場合は、今の病院へ入院するなどの対応をします。

通常、医療費は入院より高いことはありません。